

支部 だより

・北九州支部長より



始めまして、4月より北九州支部長になりました落合裕之です。

私は、昭和41年2月22日に北九州市八幡東区の新日鐵八幡記念病院で生まれ、北九州市小倉南区の下曾根で幼少期を過ごしました。

平成元年3月に熊本県の西日本リハビリテーション学院卒業後、4月より小倉北区の小文字病院に就職し、平成7年より社会保険小倉記念病院に勤め、18年間急性期リハの第一線で理学療法を実践しておりました。

この間、出会った先輩PT、患者様の事は今でも鮮明に覚えております。
この中で、私に多大な影響を与えて頂いた先輩PTから最近新たな教えを頂きました。

『人には優しく 当たり前の言葉です。しかし、自分が優しくした相手にはあまりお願いすることはないのですが、不思議と自分が敬遠した相手・どちらかというと厳しく接した相手に、その後、頭を下げる機会が多い！人生は駆け引きよく上手く出来ている。落合君も人には優しく接するように』との言葉を投げかけられました。

ある理学療法士のブログから引用します。

いろんな種類の人間がいる・・・

・・・一般のいわゆる「常識」が、崩壊しているいま・・・

・・・どのような視点で、「節度」や「倫理」を語ればよいのか・・・

「義務」と「権利」をうまく語れない人は、「権利」ばかりが前を歩く・・・

「義務」が何かもわからないまま・・・

・・・賃金・・・休暇・・・福利厚生・・・

そういったことが大事な人は、臨床には向かない・・・

・・・工場で機械でも作っていればよいのでは・・・問題になることは少ないであろうから・・・

4月から、私自身転職しました。小倉リハビリテーション学院で、40歳を過ぎて教員という新たな挑戦の始まりです。高校を卒業したばかりの若者にいかに義務と権利を教えるかを毎日考えております。その中で、自分の今までの事を振り返り、先輩PTの言葉が残りました。

皆さん、人には優しく 権利の主張の前に義務の事を考えていますか？